

世界トップレベルの大学・研究機関との戦略的な学術連携

On-site Laboratory 事業による国際共同研究の推進

www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/operation/designation/onsitelab

「On-site Laboratory」とは、海外の大学や研究機関と共同で設置する現地運営型研究室で、京都大学の重点的取組として2022年現在、11のオンサイトラボを運営しています。

各ラボでは、がん、iPS細胞等を用いた再生医療、量子ナノ科学、材料科学、エネルギー、環境理工学などの分野における最先端研究に取り組み、これまでに数多くの国際共著論文を発表しています。また、最先端の研究機器の共同利用も行っており、国内外の研究者や企業との研究交流の場として活用されています。さらに、研究施設としてだけでなく、留学生のリクルーティング拠点としての機能や、双方の大学がそれぞれ学位を授与するダブルディグリープログラムの実施など、教育面でも波及効果をもたらしています。ラボそれぞれの活動状況は、本学のウェブサイトにて随時紹介しています。



戦略的パートナーシップ事業

www.oc.kyoto-u.ac.jp/agreement/sp/

京都大学では、各部局での活発な研究交流を分野横断的に展開させるとともに、新たな学術分野での共同研究や人材流動性を促進するため、世界に卓越した大学のうち、チューリヒ大学など五つの大学を「戦略的パートナーシップ校」として認定しています。各校との共同資金 (ジョイント・ファンド) により、分野横断型ワークショップの開催や若手研究者の往来を支援し、既存の研究交流を更に発展させるとともに、新規共同研究、新分野の開拓を促進しています。



「THE インパクトランキング2022」で世界19位にランクイン!

大学の社会貢献の取組を国連によるSDGsの枠組みを使って可視化した「THE (Times Higher Education) インパクトランキング」が2022年4月に発表されました。京都大学はSDG2 (飢餓をゼロに) で世界3位、SDG9 (産業と技術革新の基盤をつくろう) で16位タイ、SDG14 (海の豊かさを守ろう) で15位と高く評価され、総合で世界1,406大学中19位タイを達成しました。

ウクライナ危機支援基金

ウクライナからの一時的な学生受入れを可能とする特別措置 (授業料免除等含む) を開始するとともに、生活支援についても関係機関と連携しながら実施しています。更に必要な経済的支援を実施するために2022年に広く社会から寄附を募る基金を立ち上げたところ、多くの方々からご賛同のご寄附をいただき、現在も引き続きご支援をお願いしています。

www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/ukraine/


京都大学安藤忠雄国際奨学金

数年のコロナ禍が続く中でも、海外留学にチャレンジする本学学生を支援するため、建築家 安藤忠雄氏のご寄附を原資とした奨学金を2022年に創設し、海外での貴重な経験による成長を後押ししています。

www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/student-3/scholarship/ando-international-scholarship